

平成 2 6 年度
長崎県研究事業評価委員会
環境保健分野研究評価分科会
報 告 書

平成 2 6 年 9 月 1 2 日

長崎県研究事業評価委員会環境保健分野研究評価分科会は、「長崎県政策評価条例」、「政策評価に関する基本方針」にもとづき、長崎県研究事業評価委員会委員長から依頼があった研究内容について調査・審議を行なったので、次のとおり報告するとともに、意見を申し述べる。

平成26年9月12日

長崎県研究事業評価委員会
環境保健分野研究評価分科会
委員長 中 島 憲一郎



1 評価日および場所

平成26年8月26日(火) 於：ホテルセントヒル長崎

2 審議案件(3件)

経常研究：事後評価3件

3 分科会委員

氏名	役職	備考
中島 憲一郎	長崎国際大学薬学部 教授	委員長
山下 樹三裕	長崎大学環境科学部 教授	副委員長
坂井 秀之	協和機電工業株式会社 代表取締役社長	
澤井 照光	長崎大学医学部保健学科 教授	
永井 正彦	三菱重工業株式会社 技術統括本部 長崎研究所 主幹研究員	
松永 淳一郎	公益社団法人 長崎県食品衛生協会 検査部長	

4 総合評価

総合評価段階は下表のとおりであった。

評価対象		総合評価				課題数
種類	時点	S	A	B	C	
経常研究	事後		2	1		3
総合評価の段階 (事後評価) S = 計画以上の成果を上げた A = 概ね計画を達成した B = 一部に成果があった C = 成果が認められなかった						

研究テーマ別評価一覧表

種類	時点	研究テーマ名	研究機関	総合評価	
				機関長 自己評価	分科会 評価
経常	事後	閉鎖性海域大村湾及びその流域における溶存有機物に関する研究	環境保健研究センター	A	A
		病原ビブリオの感染源究明のための迅速検出技術に関する研究		B	A
		E型肝炎ウイルス(EHV)に対する治療薬スクリーニング系に関する基礎的検討		B	B

5 . 研究テーマ別コメント

(1) 経常研究 (事後)

「閉鎖性海域大村湾及びその流域における溶存有機物に関する研究」

研究概要 : 大村湾における難分解性溶存有機物の存在を検証した先行研究を基盤として、本研究では調査方法及び調査地点のステップアップを図り、大村湾及びその流域における溶存有機物の実態把握を目的とする。

必要性 : 大村湾における難分解性溶存有機物の分布を調査し、その特性を評価することは、水質保全対策のみならず、水産業の活性化を考えていく上でも必要性の高いものものである。

効率性 : 国立環境研究所等の先行研究機関との共同研究・情報交換等を行い、分析評価方法を変更、資料採取地点も5地点から環境基準点全17地点に拡大するなど、効率的な研究の展開が図られている。

有効性 : 得られた結果をどう利用するかと言及まではなかったが、大村湾に関しての初めて調査で、新規性は高い。今後もデータの蓄積が必要であるが、他の研究者との交流・連携により、さらなる成果が期待できる。閉鎖性海域に対する効果的な対策を講じるための基礎研究として有効であり、今後の大村湾の活性化に対する方向性を与える研究と期待される。

総合評価 : 溶存有機物の収支が、もう少し明確になれば、更に良い研究となる。溶存有機物を新たな海洋汚染の評価指標として活用を図った点はすぐれており、今後、大村湾水質改善対策として有効に活用することで、水産・観光の活性化へと繋がっていくものと期待され、有益な研究として評価される。

「病原ビブリオの感染源究明のための迅速検出技術に関する研究」

研究概要：増殖能力を有する細菌の高感度検出法として有用なFISH法を応用した迅速検出技術を用い、特定病原ビブリオ（ビブリオ・バルニフィカス，腸炎ビブリオ及びコレラ）の迅速かつ高精度な定量法を確立し、感染症や食中毒の原因究明調査に利用する。

必要性：県民の健康に資するものであり、難培養性病原細菌の迅速な定量法の確立は、食中毒の原因究明調査ばかりか安全な食生活を保障することに繋がり必要性は高いが、具体的な対策の展開についても整理して欲しい。

効率性：大学等との研究協力により、他用途の迅速検出技術を応用し、菌の検出時間を大幅に短縮できた迅速性の面では評価できるが、確実性には不安があり、今後の研究成果を期待したい。

有効性：従来法と比較して菌検出が大幅に迅速化が出来ることを明らかにしており、今後さらに低コスト化と毒素検出技術の両面からの解析が出来れば更に有効性は増すものと考ええる。

総合評価：研究に要した時間・費用を考えると、研究成果が乏しいと感じる面もあるが、検査時間の短縮は食中毒、感染症の原因究明に有効で、行政対策に役立つものである。研究課題解決に向け更なる取組みを期待したい。

「E型肝炎ウイルス（EHV）に対する治療薬スクリーニング系に関する基礎的検討」

研究概要：選択的な抗HEV活性を示す物質を見出すスクリーニング系の構築に必要なHEVの効率の良い感染培養系、複製系、定量系の構築並びにHEVの複製に必須なHEV酵素タンパク質の作製及び活性測定系に関する基礎的検討を行う。

必要性：公衆衛生上重要な感染症の原因ウイルスでありながら効率の良い複製手段がないためにウイルス学的な研究が困難であるEHVの感染培養系を確立することを目的とした研究で、EHVの治療薬、ワクチン等の開発に有用である。また、研究員の技術力アップという観点でも必要性は高いと思われる。

効率性：他の研究機関との連携により、目処が立った研究項目もあるが、目標とした感染培養・複製系の確立には至らず、また、活性測定系の確立にも至っておらず、研究が完成するまでには、更に多くの時間が必要で計画が甘かったと言わざるをえない。

有効性：スクリーニング系が完成されると、医薬品の開発にもつながり、成果が期待されるが、一部有効な検出手段が開発されつつあるものの、研究内容が多すぎて得られた成果の十分な整理がついておらず、今後の展開が不明瞭である。

総合評価：国や大学等との研究協力体制の中で、多項目にわたって高度な研究が実行され一定の成果が得られている。しかしながら、当初の目的を達成するには至っていない。

6 分科会総評

今回の研究結果を活かし、いろいろな分野と連携して面的な解析・対策、次の研究テーマにつなげていただきたい。

県の研究テーマとして必要かどうか、学術的過ぎないかどうか十分に検討して欲しい。

いろいろな手法やネットワークを利用して研究していることはわかるが、環境保健研究センターは県民にとって安全のよりどころである。県民に、よりわかりやすく研究成果をアピールして、県民の納得を得ながら研究を進めて欲しい。

7 その他報告事項

環境保健研究センターが実施する研究について
産廃税事業「BDF」について（資料提供のみ）

(参考) 環境保健分野研究評価分科会評価一覧表

	課 題 名	視 点	評 価
事 後	閉鎖性海域大村湾及びその流域における 溶存有機物に関する研究	必 要 性	S
		効 率 性	A
		有 効 性	A
		総合評価	A
	病原ビブリオの感染源究明のための迅速 検出技術に関する研究	必 要 性	A
		効 率 性	B
		有 効 性	A
		総合評価	A
	E型肝炎ウイルス(EHV)に対する治 療薬スクリーニング系に関する基礎的検 討	必 要 性	A
		効 率 性	B
		有 効 性	B
		総合評価	B

